

会 議 錄

会議の名称	令和7年度 第4回和泉市総合教育会議
開催日時	令和7年11月13日（木）午後2時00分から午後3時30分まで
開催場所	市役所3階 3A・3B会議室
出席者	<p>[構成員] 辻市長、大槻教育長、深堀教育長職務代理者、西家教育委員、中西教育委員、木村教育委員 （欠席）小谷教育委員</p> <p>[事務局] （教育委員会） 辻教育次長兼生涯学習部長、東教育・こども部長、上田教育指導監、永井学校教育室長、仲谷児童生徒支援担当課長、辻川児童生徒支援担当主幹、日美児童生徒支援担当主幹、鍛治教育・こども部次長兼学校園管理室長、奥教育総務課長、大西教育総務課長補佐兼総務係長、吉田教育総務課企画係長、西川教育総務課主事</p> <p>（市長部局） 前田市長公室長、門林政策企画室長、福田企画経営担当課長、中企画経営担当総括主査</p>
会議の議題	<p>(1) コミュニティ・スクールについて (2) 本市における生徒指導上の課題の対応について（非公開）</p>
会議の要旨	和泉市版コミュニティ・スクール研修実績報告とコミュニティ・スクールファシリテーター、和泉市版コミュニティ・スクールガイド（市民編）に盛り込む内容について説明し、意見交換を行った。
会議録の作成方法	<input type="checkbox"/> 全文記録 <input checked="" type="checkbox"/> 要点記録
記録内容の確認方法	<input type="checkbox"/> 会議の議長の確認を得ている <input checked="" type="checkbox"/> 出席した委員全員の確認を得ている <input type="checkbox"/> その他（ ）
その他の必要事項	会議公開・傍聴者1名

審議内容 (発言者、発言内容、審議経過、結論等)

1. 辻市長から、開会の挨拶
2. 事務局（市長部局）から「第3回総合教育会議の振り返り」について説明
3. 事務局（教育委員会）から「コミュニティ・スクール研修実施報告」「コミュニティ・スクールファシリテーターについて」について説明
4. 意見交換

【大槻教育長】

- ・コミュニティ・スクール研修により、特に学校運営協議会と地域教育協議会の違いについて認識が深まった。
- ・学校から要望が出てくるのは大きな進歩。
- ・ファシリテーターの役割は難しく、どのように実現していくかアイデアを出し合っていきたい。

【深堀職務代理者】

- ・ファシリテーターの発想はいい良いが、何をどこまでしてもらうか、どんな人にしてもらうかを具体的に決めていく必要がある。
- ・コミュニティ・スクールに関わった経験のある人は少ないはずなので、相談や情報交換ができ、人材を育てることができる環境を作らないと、ファシリテーターだけに責任を負わせることになりかねない。
- ・研修で話のあったコーディネーターとファシリテーターは同じか。

【事務局（教育委員会）】

- ・ファシリテーターの主な役割は学校運営協議会の事前打ち合わせや当日のファシリテート、校長が一人で悩まないよう相談相手になることであり、その他、どこまでしていただくかは検討が必要。
- ・現状は、校長が議事運営をしているコミュニティ・スクールが多い。
- ・来年度、学校運営協議会委員を対象にした研修を予定しており、その中で情報交換やファシリテーターの悩みを聞く機会も検討している。
- ・研修で話のあったコーディネーターは、実際に活動していくためのつなぎ役として、民間企業への連絡や調整等も担っていたが、和泉市のコミュニティ・スクールでは、現状、ファシリテーターにそこまでの役割をお願いすることは現実的ではないと考えている。

【西家委員】

- ・コミュニティ・スクールの最大の目的は「子どもの社会性を育てること」だと考えている。
- ・一つの学年が共通の行動をするような従来の活動とは違い、コミュニティ・スクールはもっと小さい単位で動いた方が機能的かつ児童の特性にあった活動が可能になるのでは。
- ・活動の数にあったファシリテーターやコーディネーターが必要。
- ・ファシリテーターが学校全ての活動を把握していくことは現実的ではない。
- ・活動自体も画一的にならないよう、テーマごとにファシリテーターやコーディネーターの組み合わせを考えることも考えらえる。

【事務局（教育委員会）】

- ・これからのこともたちは、あらゆる教科をまたぎ、横断的に解決していく力が求められる。
- ・活動にひとつの答えはなく、各学校のコミュニティ・スクールで様々な形で実現していくもの。
- ・コミュニティ・スクールの各委員の役割は活動を外部に繋ぐことで、ファシリテーターの役割は会議の司会進行や、委員から意見を引き出すこと。
- ・活動の人数は学校の規模やテーマなどによって変わってくるが、現状は学年ごとの動きが多くなると考えている。

【中西委員】

- ・事務局の説明では出発点を学校運営協議会と捉えるのか、どのように教育活動や地域連携活動を行うのかが分かりづらい。
- ・大門コミュニティ・スクールマイスターの富田林の中高一貫校の事例は、大阪府でも誇れる初めての取組だが、遠くから時間をかけて通っている子どもも多く、和泉市で参考になるかは検討が必要。
- ・学校運営協議会が意見を言うだけの組織ではなく、学校経営計画の策定主体となり、評価検証も行うことが重要。
- ・事実上、ファシリテーターという名称は使っていないが、現在は委員長がその役割を果たしている。
- ・あまり難しく考える必要はなく、どのような人が運営の核になり、責任をもって進行管理を行ってもらうかが大切。

【事務局（教育委員会）】

- ・コミュニティ・スクールでの熟議を活動へどうつなげるかは課題になる。
- ・コミュニティ・スクールと地域学校協働活動との一体的な推進は今後も必要。
- ・地域で関わることを大切にしながら、学校が明確なテーマを持つことも必要。
- ・学校経営計画の承認や評価検証も大事にしていきたい。
- ・テーマ型がコンテンツのみに陥らないように検証したい。
- ・ファシリテーターについては、既に核になっている人を中心に担っていただきながら進める。

【木村委員】

- ・地域教育協議会とコミュニティ・スクールは別物だが、どちらにも所属している人がいるので、違いを理解するのは難しく、もう少し分かりやすい説明はできないか。
- ・良いものを提供しようと思うと、その分の報酬は用意すべきだと思うが、協力してくれる人に対し、謝礼等の財源は確保できるのか。
- ・やりたい理想は理解できるが、地域とのつながりが希薄化する社会において活動が難しいことも想定される。研修でうまくいかなかつた事例の紹介はあったか。

【事務局（教育委員会）】

- ・財源として、学校の研修費補助金の活用を検討している。
- ・目標を共有するだけでは活動を進めることは難しいので、まずはできることから取り組んでいきたい。
- ・研修はうまくいかなかつた事例に触れるものではなかつた。

【辻市長】

- ・ファシリテーターは、話を繋いだり、ほぐしたり、バランスよく合意形成する役割がある。
- ・校長先生の役割とどのように切り分けるのか。

【事務局（教育委員会）】

- ・第2回の総合教育会議ではファシリテーターの役割を校長が担うとしていたが、研修を受けて、教職員とは別の立場の人にファシリテートしてもらう方が望ましいと考えた。
- ・現在は学校運営協議会の資料準備や運営は学校が担っており、校長は主に説明をする立場にあるため、当日の進行まですると、学校からのお願いの要素が強くなってしまう。
- ・当日の進行を教職員以外の人が行うことでの、学校と地域が対等な立場で議論でき、各委員の当事者意識が生まれやすくなるのではないかと考えている。
- ・ファシリテーターと校長が事前に意思疎通を図っておくことで、校長の負担を軽減しながら、校長も意見しやすくなり、協議会の議論がより深まるのではないかと考えている。

【辻市長】

- ・コミュニティ・スクールの役割は学校や地域の課題を抽出し、どのような行動を起こして解決していくのか議論する場と考えている。
- ・校長には、ファシリテーターと異なり、信頼関係を築いたり、共感をもって導いていくスーパーコミュニケーターのような役割を担っていただくのがいいのではないか。

5. 事務局（教育委員会）から「和泉市版コミュニティ・スクールガイド（市民編）に盛り込む内容について」について説明

6. 意見交換

【大槻教育長】

- ・市民といつても保護者や学校に関わりのない方など様々。
- ・すべての市民に当てはめるものを作るのは難しいのではないか。
- ・対象を絞ったうえで、慎重に、丁寧に作っていく必要がある。

【事務局（教育委員会）】

- ・作成にあたって念頭においたのは、コミュニティ・スクール委員と、委員が繋いでいくより広い意味での市民。

【深堀職務代理者】

- ・コミュニティ・スクールとは何なのかを冒頭に書かないと、基礎知識がない一般市民には分かりにくい。
- ・本来の学校運営協議会としての機能が書かれていない。
- ・P 27. P 28 に「話し合い」と「つなぐ」といったキーワードが書かれており、P 29. P 30 の右側の事例にもこれらのキーワードが入ってはいるが、左側の部分には「つなぐ」が記載されていない。
- ・P 31 の右側中段にある白い枠の部分について、一緒に活動できないと捉えられるおそれがあるので、表現を変えてはどうか。
- ・P 31 の右側下段の白い枠部分について、抽象的すぎて、例としては分かりにくく、言葉たらずではないか。

【事務局（教育委員会）】

- ・市民向けのコミュニティ・スクールガイドを出すだけでは意味がないため、読む方の理解が得られるような内容にしないといけない。
- ・目次についても、より伝わりやすい順番にしていきたい。
- ・P 29. P 30 の事例に、「つなぐ」の表現が少ないので、その他の指摘部分も含め、修正を検討する。

【西家委員】

- ・幅広く市民に伝えたり、ブラッシュアップしていくのであれば、電子媒体の方が効率的。
- ・一方で、最初に委員になる方やコーディネーターには、趣旨や意義を文字で伝えないといけない。
- ・コミュニティ・スクールがなぜ必要なのか、社会的な背景や必要性を強調した方がいいのではないか。
- ・広く、長い期間見てもらいやすいという意味でも、電子媒体がいいのでは。

【事務局（教育委員会）】

- ・ガイドの形態や内容について検討する。

【中西委員】

- ・コミュニティ・スクール制度が発足して20年が経過し、文部科学省が設置努力義務として10年が経過しており、新しい話ではない。それを踏まえると、ガイド案は、一般市民向けの広報としては分量が多く、理念的で分かりにくいくことから、現案のガイドブックのままであるのなら必要がないと感じる。
- ・市民が関わる具体的な内容を強調すべき。
- ・学校運営協議会についてコンパクトに記載するとともに、市民に関わる部分をしっかり広報していくなど、分けて考えることが必要。

【事務局（教育委員会）】

- ・理念的な話にとどまると、ガイドを作る意味が薄れるので、より分かりやすく、和泉市らしさを求めてアップデートしていきたい。

【木村委員】

- ・学校がやりたいことを実現することがコミュニティ・スクールだと理解していたが、例の部分で、地域からの意見から始まっている部分もあり、読めば読むほど難しく感じた。
- ・こどもが話し合いに参加することはないのか。
- ・大人が思っていることと、こどもが思っていることが違うこともある。
- ・こどももさまざまなことを、考えることができるので、こどもの力によって動いていくこともあるのではないか。

【事務局（教育委員会）】

- ・事例のどの部分を切り取って掲載するのがいいか苦慮した。より良くなるよう検討していきたい。
- ・実際に和泉市でも生徒会が参加して、こども目線の意見を伝え、話し合いをしている事例もある。
- ・制度的なことや理念的なことばかりではなく、「こどものために」という視点を持って作成していきたい。

【辻市長】

- ・前回の資料では学校・PTA・地域団体向けに出すという話で、市民向けではなかったのではないか。

【事務局（教育委員会）】

- ・コミュニティ・スクールガイドの目的は活動してもらう方に内容を理解してもらうことであると認識している。

【辻市長】

- ・少しでも知ってもらい、人材を掘り起こしていきたいという考え方。

【事務局（教育委員会）】

- ・人材の発掘までできればいいが、まずは活動してもらう委員の方に、どういった関わりができるか知つてもらえるものにしたい。

【辻市長】

- ・コミュニティ・スクールに興味がある人はガイドを見に来るはずなので、電子媒体で十分ではないか。

7. 欠席の小谷委員からのコメントを事務局（市長部局）から発表

【小谷委員からのコメント】

- ・市民向けガイドについて、市民に参加してもらうには、市民側のメリットも記載する必要がある。
- ・地域のこどもを育み持続可能な街にする、こども育成のために地域活動に参加してもらうなど、地域の存続の視点も入れてはどうか。
- ・学校の目標をどう達成するか、の「目標」が分かりづらい。
- ・以前の会議で学校の目標は様々で書きづらいとの話だったが、和泉市の統一の目標を書いたり、いじめ撲滅や不登校を無くす、創造性を育むなど、大きなジャンルで書くといった切り口ではどうか。
- ・資料のあちらこちらに目標が出ているが、会話まで見ないと分からないという印象。

8. 「(2) 本市における生徒指導上の課題の対応について」の意見交換

(非公開)

【事務局（市長部局）】

- ・以上をもって、令和7年度第4回和泉市総合教育会議を終了する。

< 終了 >